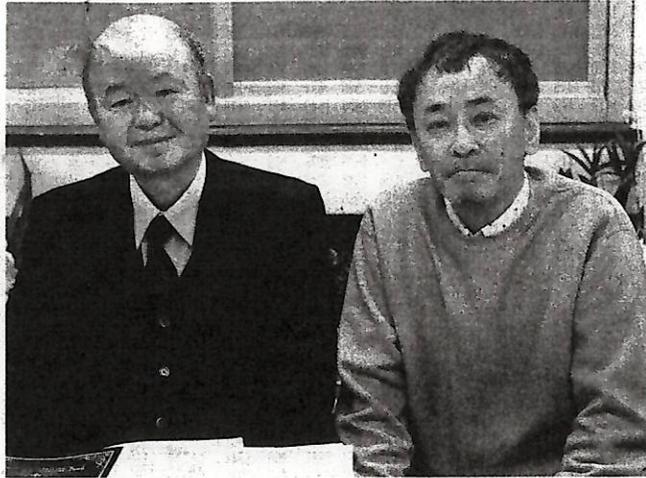


教育困難校の再生劇に

横芝敬愛高校(横芝光町)の校長、白鳥秀幸さん(73)が県立姉崎高校(市原市姉崎)の校長時代、問題を抱えていた学校を再生させた軌跡が20年近くを経て演劇になり、3月に東京都内で上演される。学校長を主人公にした芝居は珍しく、来週から俳優たちの稽古が始まる。(奥村登)

「あねさきの風」



白鳥校長(左)と俳優の藤崎さん(横芝光町の横芝敬愛高校で)

横芝敬愛高校長の実話 俳優・藤崎さんら来月上演

* 信念胸に立て直し

白鳥さんは2004～06年度、姉崎高の校長を務めた。着任当初は、学力や生活面で問題を抱える生徒の多い「教育困難校」で、校舎の窓ガラスが割られたり校内の消火器が壊されたりした。

「生徒、学習、進路指導は三位一体」の信念から、教員や県教育委員会などの協力を得て、生徒の服装チェックや校内の清掃活動から始めた。生徒が小中学校の学習のどこでつまづいたかを把握し、学び直しをさせて学校を立て直した。これを記録に残そうと、11～12年に「あねさきの風」(学事出版)を上下巻で出版した。

白鳥さんの教え子らが約2年前、「映画にしてほしい」と映画製作会社「平成プロジェクト」(東京都千代田区)に資料を提供。同社のプロデューサー、益田祐美子さんは当初、校長の

視点だけの作品化は難しいと考えたが、コロナ禍に1か月かけて資料を読み込み、演劇にすることを決めた。生徒たちの視点も加え、笑いあり涙ありの「あねさきの風」学び直して立ち直った不良たちと学校の物語」の台本が完成した。

* 「教育界に二石を」

主役の白鳥校長役は、俳優の藤崎卓也さん(60)が演じる。俳優の藤田朋子さん(58)も地元有力者の社長役で出演。14日から稽古を始め、3月14～17日に俳優座劇場(港区)で上演される。益田さんは「児童や生徒の不登校など日本の教育界は問題を抱えている。人間味ある白鳥さんという校長を主人公に二石を投じた」と意気込む。

白鳥さんは「『あねさきの風』出版後も、各地で講演し、学び直しの大切さを訴えてきた。それが伝わり、実を結んだと喜んでいる。チケットは発売中で、前売り、当日券とも7000円(全席指定)。問い合わせは、平成プロジェクト(03・3261・3970、平日午前11時～午後4時)。